
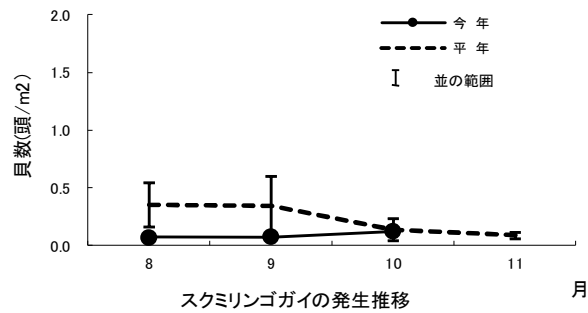


作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
10月の発生量（現況）	並		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	貝数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

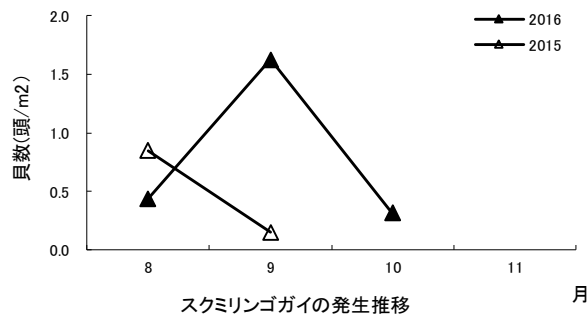
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月中旬の調査の結果、1平方メートルあたりの貝数は0.1頭（前年0.3頭、平年0.1頭）と平年並であった。また発生ほ場率は50.0%であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

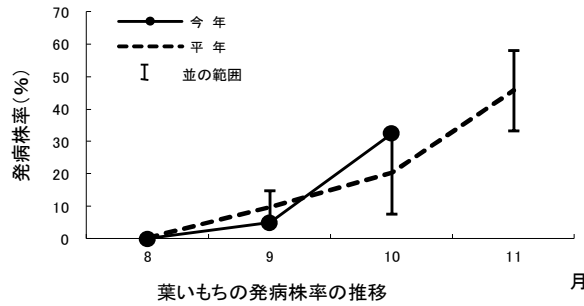
- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・ 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② 葉いもち病		
10月の発生量（現況）	並		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。		

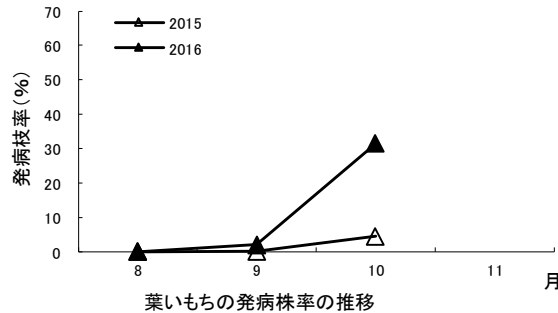
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月中旬の調査の結果、葉いもち病の発病株率は32.5%（前年31.5%、平年20.3%）と平年並であった。また発生ほ場率は75.0%であった。
- ・ 10月中旬の調査の結果、穂いもち病の発病株率は3.0%であった。また発生ほ場率は31.3%であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

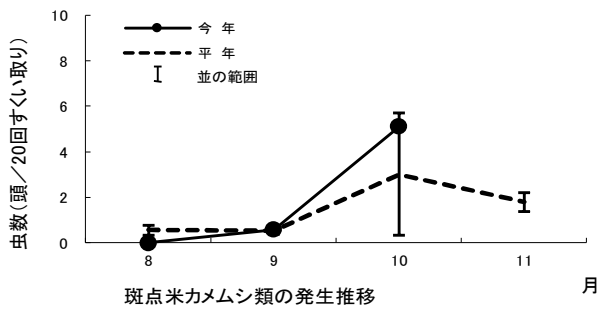
- ・ 被害わらは次作の感染源となるため、ほ場外へ持ち出し処分する。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ 斑点米カメムシ類		
10月の発生量（現況）	並		
11月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は減少すると考えられる。		

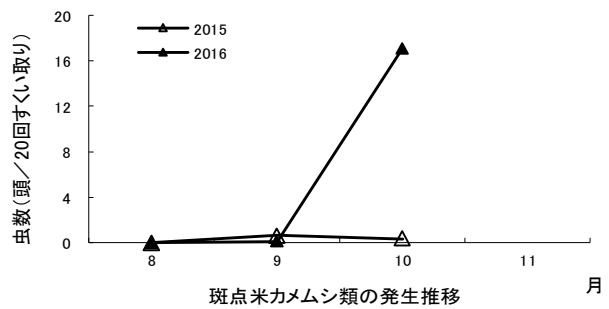
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月中旬の調査の結果、捕虫網20回すくい取り虫数は5.1頭（前年17.1頭、平年3.0頭）と平年並であった。
- ・ 発生種はクモヘリカメムシ類が最も多く、次いでアカカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミホソナガカメムシ、ヒメナガカメムシ類、ミナミアオカメムシ等であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

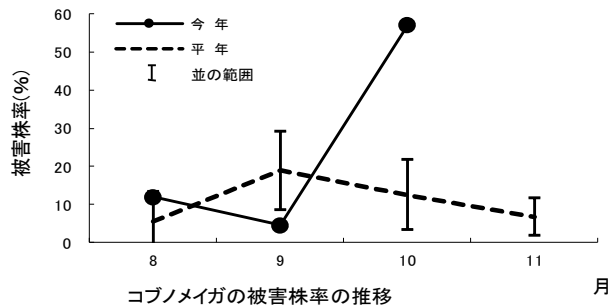
- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	④ コブノメイガ		
10月の発生量（現況）	多		
11月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	被害株率の平年の発生推移から、10月より発生量は減少すると考えられる。		

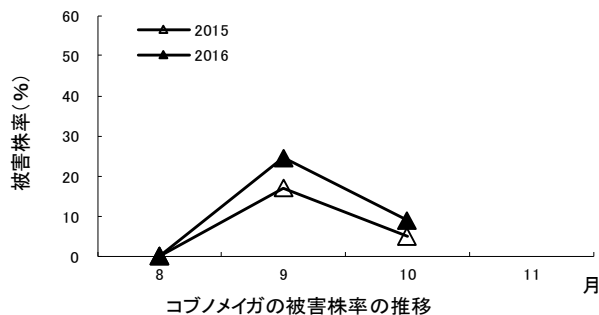
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月中旬の調査の結果、被害株率は57.0%（前年9.0%、平年12.5%）と平年より多かった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ 老齢幼虫は防除効果が劣るため、粒剤では成虫発生最盛期、粉剤及び液剤ではその約1週間後に薬剤防除を行う。